KONICA

auto S2

使用説明書

各部分のなまえ

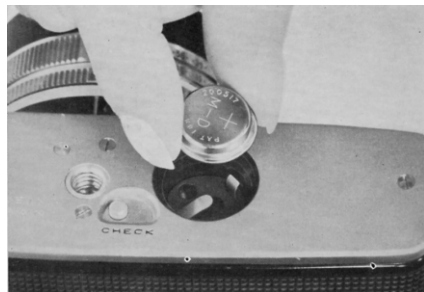
❶被写界深度目盛
❿距離計窓
❾距離計ファインダー窓
❽セルフタイマー
レバー
❷ストラップ
取り付け金具
❼メーター受光窓
KONICA
KONICA HEXANON
1:1.8 f=45mm
❸MX切替レバー
❹フラッシュ接続ソケット
❺ヘキサノンレンズ
❻フォーカスレバー

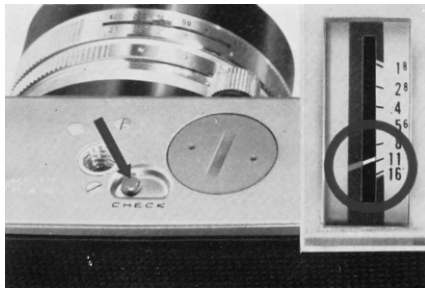
⑪シャッター・絞り指標
⑫シャッター速度リング
⑬マニュアルリング
⑭巻戻しノブ
⑮巻戻しクランク
⑯距離基準マーク
⑰アクセサリークリップ
⑱上部メーター
⑲巻上げレバー
⑳フィルムカウンター
㉑シャッターボタン
㉒距離目盛
㉓マニュアル絞り目盛
㉔ AUTO 目盛
㉕シャッター速度目盛
auto S2
500 250 125 60 30 15 8 4 2 1 B
AUTO 1.8 2.8 4 5.6

㉖フィルム感度目盛(ASA・DIN)
㉛フィルム感度レバー
ASA
DIN
CHECK
㉗巻戻しボタン
㉘三脚ねじ
㉙電源チェックボタン
㉚水銀電池室

㉜巻戻し軸
㊶アイピース
㊵巻取りスプール
㊴ブレッシャープレート
SAKURA FILM
㊳裏ぶた
㉞フィルムガイド
㊱フィルム差し込み溝
㉝パトローネ室
㉟スプロケット
㊲フィルム安定ローラー

水銀電池を入れてください

コニカオートS2のCdSメーターは、水銀電池を電源として働きます。付属の水銀電池の表面を乾燥した清潔な布でよく拭いてから、カメラの水銀電池室に入れてください。

1. カメラ底部の水銀電池室㉚のふたを、硬貨などで左(反時計方向)に回してはずします。
2. 水銀電池の＋側をふたの＋側と合うように入れて、ふたをねじ込みます。

電源のチェック

カメラ底部の電源チェックボタン㉙を、いっぱいに深く押してください。電池がじゅうぶんであれば、電源チェック指標㊼——上部メーターの橙色マーク——のところで指針㊻が止まります。

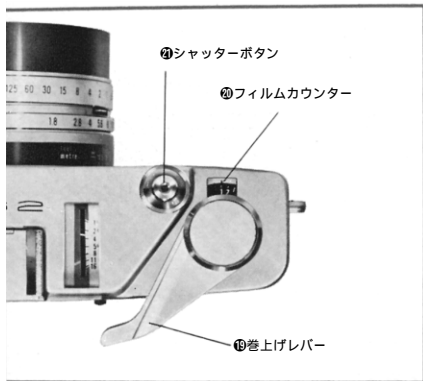
● 水銀電池は普通のご使用ならば一年以上は十分もちます。電圧は使用経過とともに除々に低下しないで、なくなるときは急になくなる性質をもっています。

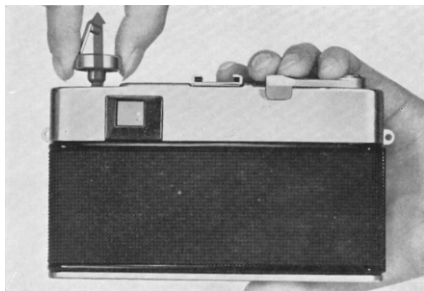
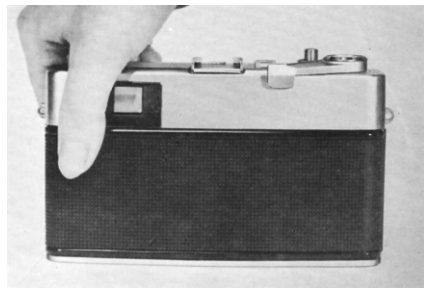
● 電池が消耗し、指針の振れが指標に達しない場合は、新しい水銀電池と取り替えてください。

● 水銀電池は1.3V ナショナルMD型・東芝TH-MC型などを使用します。

● カメラを長期間ご使用にならないときは、水銀電池を取り出し、湿気の少ないところに保存してください。

巻上げレバーとフィルムカウンター

巻上げレバーは止まるところまで確実に操作してください。

- コニカオートS2の巻上げレバー⑲を止まるところまで回すと、フィルムが一枚巻上げられ、フィルムカウンター⑳が一目盛進み、EE絞りが開放に戻り、同時にシャッターがチャージ(シャッターボタン㉑を押せばきれる状態になる)されます。
- 巻上げレバーは一回操作したら、シャッターをきらなければ続けて巻上げることはできません。またシャッターをきったら、巻上げない限り再びシャッターをきることができない二重露出防止機構になっています。
- フィルムカウンター⑳は、巻上げレバー⑲を操作するごとに一目盛ずつ進み、撮影枚数を示します。そして、裏ぶたを開くと自動的にスタートマーク(Ｓ)に戻ります。

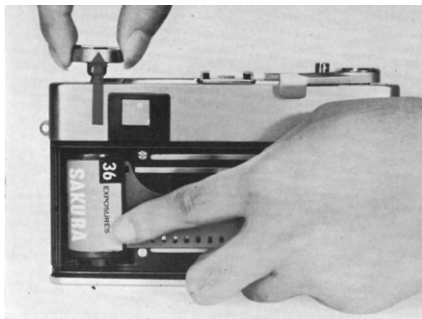
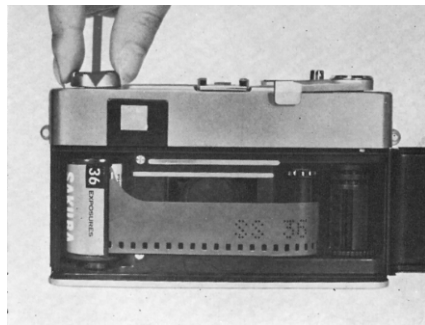
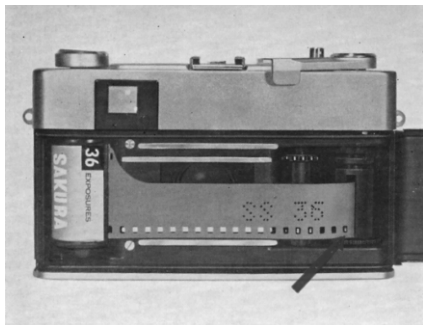
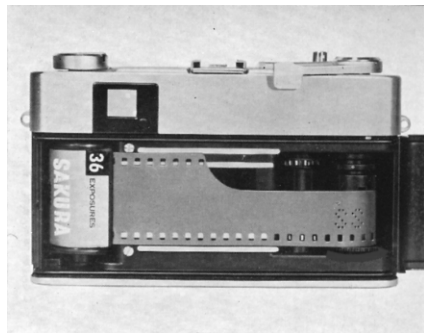
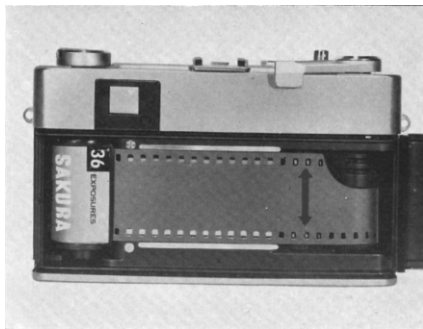
裏ぶたを開くには

カメラの**裏ぶた㊳を開くには**、巻戻しノブ⑭を引き出し、さらにもう一段強く引き上げると開きます。

裏ぶたを閉じるには、裏ぶたの端を指先で押えると自動的にしまります。

フィルムの入れ方

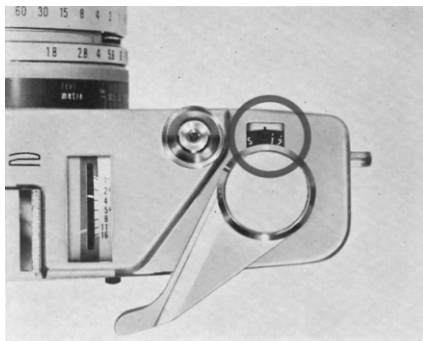
さくらカラーリバーサル	ASA	50
さくらカラーネガティブ	ASA	100
コニパン　ＳＳ	ASA	100

● コニカオートS2にはパトローネ入り35ミリフィルム(さくらフィルムコニパンSSなど)を使用します。さくらカラーリバーサル、さくらカラーネガティブをお使いになりますと美しいカラー写真が写せます。

● フィルムの出し入れをおこなうときは、必ず日陰を選んでください。日陰のないところでは、ご自分のからだの陰を利用するのも一つの方法です。

● マニュアルリング⑬をAUTO❽からはずしておくと、レンズキャップをつけたままでも、カラ写しができますから操作が楽におこなえます。

[1] カメラの裏ぶた㊳を開き、巻戻しノブ⓮を引き上げながら、パトローネの軸の出ているほうをカメラの底部に向けて、パトローネ室㉝に納め、

[2] 巻戻しノブ⓮を左右に少し回しながら元の位置まで押し込んでください。

3 フィルムの先を巻取りスプール㊵の溝に差し込み(スプールは空転しますから指先で差し込みやすい位置に回してください。)パーフォレーション(フィルムの穴)をスプールの爪にひっかけてください。

4 パーフォレーションをスプロケット㉟(フィルムを送る歯車)に合わせ、巻取りスプールのツバを回してフィルムを巻きつけます。

5 巻取りスプール㊵を回してゆき、両側のパーフォレーションがスプロケット㉟にかかったところで裏ぶたを閉じます。

6 巻戻しクランク⑮を起し、矢印の方向に静かに回し、パトローネ内のフィルムのゆるみをなくしておきます。

フィルムを入れたら、忘れずにマニュアルリング⑬をAUTOに合わせ、フィルム感度レバー㉛を使用フィルムの感度(ASA)に合わせておきます。——EE撮影のやり方——参照

7 フィルムを巻上げシャッターボタン㉑を押し、カラ写しを二度おこなってください。これでフィルムカウンター⑳は１の手前を指しています。

次に巻上げると一枚目の撮影ができます。

フィルム巻上げの良否の確かめ方

フィルムが正しく巻上げられているときは、巻上げをおこなうごとに巻戻しノブ⑭が反時計方向に回ります。もし回らなければ、正しく巻上げられていないのですから、ご注意ください。

EE撮影のやり方

コニカオートS2フィルム感度目盛

ASA	(20)	25	(32)	(40)	50	(64)	(80)	100	(125)	(160)	200	(250)	(320)	400
DIN	(14)	15	(16)	(17)	18	(19)	(20)	21	(22)	(23)	24	(25)	(26)	27

カッコ内の数字は中間の点に相当する感度です。

● フィルムの感度(ASA)はフィルムの外箱や使用書に書いてあります。

●フィルム感度(ASA)の合わせ方をまちがえると、正しい露出が得られませんからご注意ください。

● フィルム感度目盛はASAとDINが並べて記してあります。

● ASA・DINとはフィルムが光に感じる度合を示す単位です。

1　マニュアルリング⑬をAUTO㉔に合わせます。

マニュアルリングを回してAUTOを指標に合わせてください。これによってEE機構が働きます。

2　フィルム感度(ASA)を合わせます。

フィルム感度レバー㉛を押し込みながら動かして、レバー中央の切り込みを使用フィルムの感度に相当する目盛に合わせておきます。目盛に正しく合ったところで落ち込んで固定されます。

3　シャッター速度リング⑫を回して、希望のシャッター速度を決めます。

屋外では1/250秒、室内では1/30秒に合わせておくと便利です。シャッター速度は必ずクリックの目盛位置に合わせてください。

4　ファインダーで被写体を見ながら、視野内メーター㊾を見てください。

メーターの指針㊺が、絞り目盛の書いてある黄色の部分にあるときは露出が正しいときです。そのままシャッターをきればEE撮影ができます。

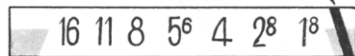
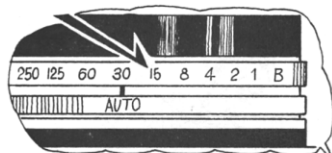
適正露出範囲

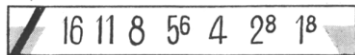
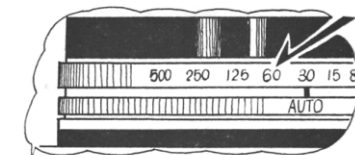
視野内メーター㊾の黄色の部分が適正露出範囲㊷で、指針㊺がこの範囲にあるときは、EE撮影ができることを示しています。そして、指針はそのときに働く絞り目盛をさしています。

警告マーク

視野内メーター㊾の両わきにある赤色の部分が警告マーク㊹で、指針がこのマークにかかったときは、EE撮影ができません。そして、このときはシャッターボタンがロックされて、シャッターがきれないよう安全装置が働きます。

露出不足を示したときは
——シャッター速度を遅いほうに——

指針が1.8側の警告マーク㊹にかかったときは、そのままのシャッター速度では露出不足を示していますから、シャッター速度を遅いほうに変えてやります。そして、指針が黄色の部分に入ればEE撮影ができます。

露出速度を示したときは
——シャッター速度を速いほうに——

指針が16側の警告マーク㊹にかかったときは、そのままのシャッター速度では露出過度を示していますから、シャッター速度を速いほうに変えてやります。そして、指針が黄色の部分に入ればEE撮影ができます。

絞りを先に決めたいときは

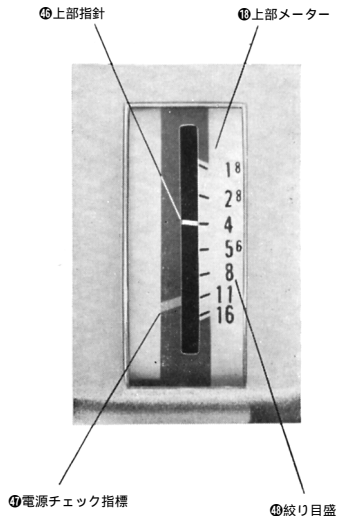
絞りを小絞りにして被写界深度を深くしたいとき、あるいは、絞りを大きく開き、深度を浅くしてバックをぼかしたいときなど、絞りを先に決めたいときは、視野内メーターの絞り目盛㊸を見ながらシャッター速度リングを回して、指針を希望の絞り目盛に合わせます。このとき、シャッター速度は必ずクリック位置で使用してください。

EE連動範囲

コニカオートＳ２のCdSメーターは、使用フィルムの感度がASA100のとき、EV1.7(F1.8　１秒)からEV17(F16　1/500秒)の広い範囲に連動する超高感度の性能をもっています。

● ASA125〜ASA200で１秒が、ASA250〜ASA400で１秒および1/2秒がEEでは使用できません。この範囲にかかるときは、シャッター速度リングに抵抗があります。無理に回すとAUTOから、はずれますからご注意ください。

カメラ上部メーター

カメラ上部にもメーターがありますが、使い方は視野内メーターと全く同じです。ただし、適正露出範囲が白色、警告マークが黒色となっています。橙色のマークは電源チェック指標㊼です。

カメラはしっかり構えて

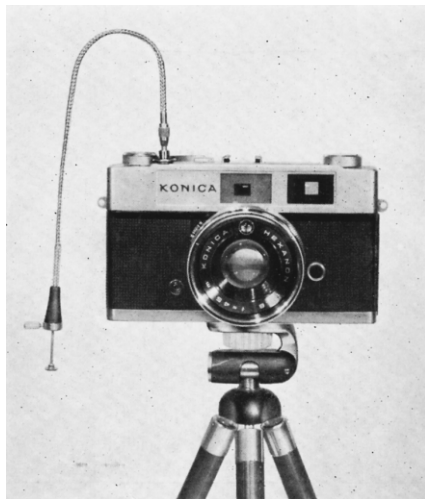
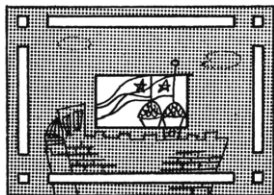
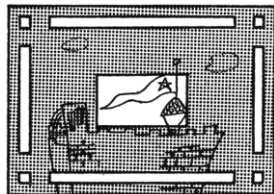
よいピントの写真を写すためには、シャッターボタンを押す際カメラぶれを起さぬよう、確実に構えることがたいせつです。カメラは両手でしっかり持って手、鼻、ひたいなどでうまく顔に密着させて安定をはかり、指の腹でシャッターボタンを静かに押してシャッターをきってください。

● 縦位置のカメラの構え方は、横位置の写し方よりもカメラの保持がむずかしいようですが、被写体によっては縦位置で写すこともありますから、練習してよく慣れてください。

KONICA
KONICA
KONICA

- 1/8秒以下の低速度シャッターで写すときは、手持ではカメラぶれを起しますから、三脚を使用するか固定した台の上にカメラを安定させてください。

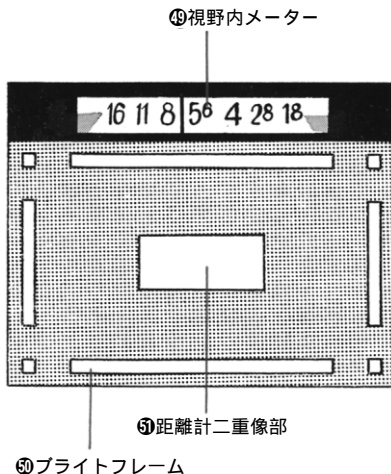
- 三脚を使用するときは、カメラ底部の三脚ねじに取り付けます。

- ケーブルレリーズはシャッターボタンの上にねじ込んでお使いください。

ピントの合わせ方とファインダーの見方

ピントが合っていないとき(ねらった被写体の二重像が離れている)

ピントが合ったとき(ねらった被写体の二重像が一致している)

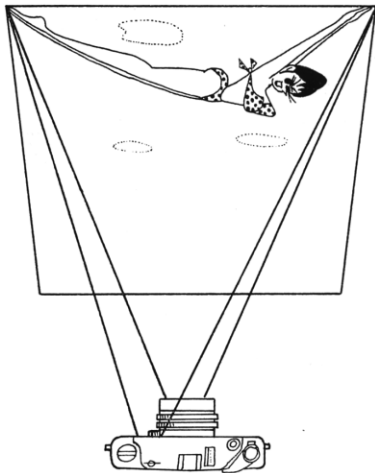
ピントの合わせ方

ファインダーをのぞくと、中央に四角い黄色の部分が見えます。これが距離計を合わせる二重像部㉛で、この中の被写体は、ピントが合っていないときは二重にずれて見えます。
フォーカスレバー❻を動かすと二重像の片方の像が動きます。この二重像のずれがなくなり、ぴったり重なったときがピントの合ったところです。

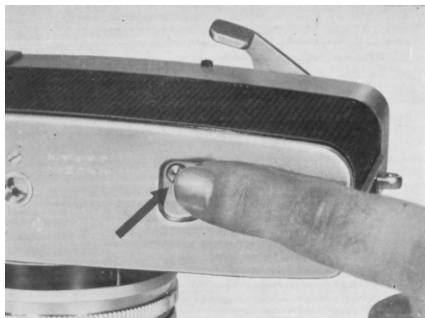
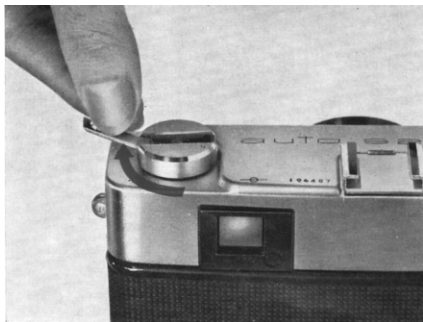
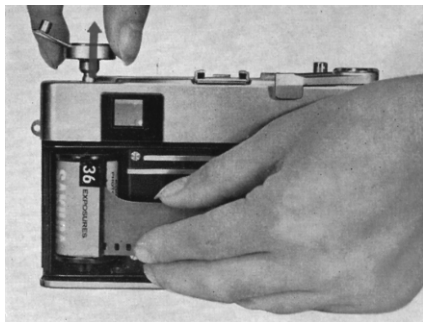
距離基準マーク(⊖)

レンズの距離目盛は、この距離基準マーク⓰からの距離が表示してあります。そして、このマークはフィルム位置になっています。

ファインダー

コニカオートS2は、明るく構図が決めやすい採光式ブライトフレームファインダーです。
ファインダーをのぞくと、周辺部に明るい光の枠が見えます。これをブライトフレーム㊿といって、この中が撮影範囲になります。

パララックス(視差)および画角自動修正機構により、パララックスだけでなく近距離における画角の違い(近距離になるにつれてレンズが前に出るので画角が狭くなる)まで自動的に修正されるので、各距離においてファインダー視野と撮影画面との関係は常に一定しています。

フィルムの巻戻し方

カメラに入れたフィルムのきまった枚数を撮影し終ったら、フィルムを元のパトローネに巻戻します。巻戻しをしないで裏ぶたを開けてしまうと、フィルムは光に当って全部だめになってしまいますからご注意ください。

● フィルムが終りになった最後の巻上げで、レバーが途中で止って動かなくなったときは、無理に巻上げないでください。巻上げレバーは指先で元の位置に戻せます。

1 巻戻しボタン㉗を押してください。ボタンは一度押せばひっこんだままになります。
2 巻戻しクランク⑮を起して、矢印の方向に回します。これでフィルムがパトローネに巻戻されてゆきます。このとき巻戻しボタンが回転します。

③ 巻戻しボタンの回転が止ったら――このとき手ごたえが急に軽くなります。――巻戻し完了ですから、裏ぶたを開き、パトローネを取り出します。

● ひっこんだ巻戻しボタンは、次の巻上げによって元に戻ります。

● カメラからパトローネを取り出すときは、日陰でおこなってください。

セルフタイマーの使い方

コニカオートS2は、どのカメラよりも使いよいEE **セルフタイマー**がついています。
セルフタイマーは記念撮影に利用するほか、接写などのカメラぶれ防止にも効果があります。

- シャッターボタンはカメラの後側で押してください。前に立つと、ご自分の陰に対する露出になってしまいますから……。
- シャッターボタンは、最後まで十分深く押してください。

1. **MX切替レバー❸をXに合わせます。(Mの位置では使用できません。)**
2. **セルフタイマーレバー❽をいっぱいにセットします。**
3. **シャッターボタン㉑を十分深く押してください。セルフタイマーが動き始めます。**

● **セルフタイマーレバーのセットのしかたを少なくして、シャッターがきれるまでの時間を短かくすることができます。**

フィルターを使うときは

コニカオートS2のフィルターは、金属枠付ねじ径55ミリ、ピッチ0.75ミリのねじ込み式を使用します。

コニカオートS2はメーターの受光窓が鏡胴の正面上部にありますから、フィルターは受光窓ごとおおってしまうので、使用フィルターの露出倍数は自動的に修正されます。したがって、フィルターをつけても何も修正することなく、そのままEE撮影ができます。

UVフィルター　　写真に有害な紫外線だけを吸収する無色のフィルターで、画面全体がすっきりした調子となる上レンズの保護にも役立ちます。**カラーにも使えます。**

Y1・Y2フィルター　　紫外線と青の一部を吸収する黄色のフィルターで、風景、人物、スナップなどで明暗の描写を強調し立体感を出します。**カラーには使わないでください。**

R1フィルター　　コントラスト強調用の赤フィルターで、山岳・雲などの撮影に適します。また、赤外フィルムと併用し赤外写真撮影に用います。**カラーには使わないでください。**

NDフィルター　　色感には全然影響なく光量だけ少なくする灰色のフィルターで、晴れた雪景色や海岸で撮影するときなどに最適です。**白黒・カラーともに利用できます。**

コニカオートS2用フィルターはUV・Y1・Y2・R1の四種類が用意してあります。

マニュアル絞りについて

フラッシュ撮影、あるいは特別な目的で露出を加減して撮影する場合は、マニュアルリング⑬をAUTOからはずして、マニュアル絞りで露出を決めます。

絞り目盛は1.8・2.8・4・5.6・8・11・16とあり、数字が大きくなるほどレンズをとおる光の量が少なくなります。その関係はF1.8をのぞいて、一目盛絞るごとに光量が半減します。つまり、F4はF2.8の半分の光量、F5.6はF4の半分の光量となります。

●マニュアル絞りによる撮影の場合、メーターは単独メーターとして働き、絞り目盛を示します。ただし、EEでメーターの使用できない範囲(ASA125〜ASA200で１秒、ASA250〜ASA400で１秒および1/2秒)は、マニュアル絞りの場合にもメーターは使用できません。

B（バルブ）露出について

シャッター速度目盛をＢに合わせてシャッターをきると、バルブ露出といって、シャッターボタンを押している間シャッターが開き、指を離すと閉じるので、１秒以上の長い露出の撮影に用います。

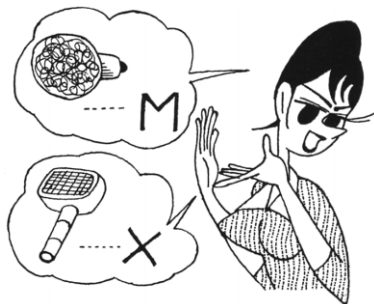
● シャッター速度リング⑫をＢに回すときは、先にマニュアルリング⑬をAUTO㉔からはずしてください。

フラッシュ撮影のやり方

●フラッシュ撮影ではAUTOは使用できませんから、マニュアル絞りによって露出を決めます。

発光器の取り付け
フラッシュガンあるいはストロボをカメラのアクセサリークリップ⑰に取り付け、コードの先端のプラグをカメラ前面のフラッシュ接続ソケット❹につなぎます。

ＭＸ切替レバー

M接点──M級フラッシュバルブを使用するときは、切替レバー❸をＭの位置に合わせてください。M接点はM級フラッシュバルブを使って、すべての速度に同調します。

Ｘ接点──ストロボを使用するときは、Ｘの位置に合わせてください。Ｘ接点はストロボ用としてありますから、ストロボが全速度に同調します。

● ストロボおよびF級フラッシュバルブは、M接点では同調しませんからご注意ください。必ずフラッシュ同調表を参照して使い分けてください。

● セルフタイマーはX接点だけに使えますので、セルフタイマー使用によるフラッシュ撮影は、ストロボならば1/500秒まで同調します。しかし、フラッシュバルブ使用の際には、フラッシュ同調表を参照してシャッター速度を決めてください。

コニカオートS2フラッシュ同調表

接点	フラッシュバルブ ＼ シャッター速度	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500
M	M 級	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
X	ストロボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	F 級	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
	M 級	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×

○印……同調　×……使用不可能

露出の決め方

フラッシュ撮影は、フラッシュバルブの発光を光源として写すのですから、フラッシュバルブの光の強さと、被写体までの距離に応じて、絞りによって露出を決めます。

絞りは使用するフラッシュバルブのガイドナンバーを距離で割って求めます。ガイドナンバーはフラッシュバルブの包装ケースに示されています。また、フラッシュバルブの種類によっては、ガイドナンバーが表わしてないで、被写体距離に応じた絞り目盛を直接示したものがあります。

逆光線撮影の露出について

コニカオートS2のCdSメーターは受光角度が狭いので、写角以外の影響を受けませんから、カメラを被写体に向けてEE撮影をおこなって結構ですが、次のような特殊な光線状態の場合には露出を修正されるようおすすめします。

逆光線撮影の場合

非常に明るいバックの人物、逆光線撮影のときは、バックの光が強いために、実際に写したいものが露出不足になります。

こんな条件のときは、半分に下げた数値のASA――たとえば――使用フィルムがASA100ならASA50――に合わせてEE撮影してください。あるいは、視野内絞り目盛を読み、マニュアル絞りによって一段開いた絞り――たとえばーメーターの示した絞りがF11ならば、マニュアル絞り目盛をF8――に合わせ、二倍の露出をかけて撮影してください。

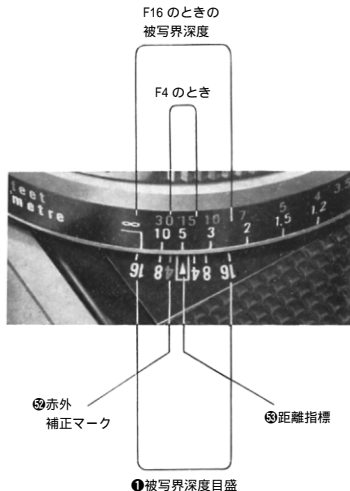
被写体だけ明るく周囲が暗い場合

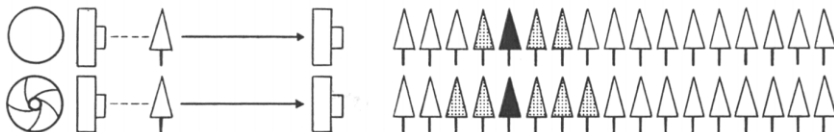
こんなときは、周囲の暗さに影響されて、実際に写したいものが露出過度になりますから、二倍に上げた数値のASAに合わせるか、あるいは、マニュアル絞りで一段絞り込んで、半分にきりつめた露出で撮影してください。

● これらの撮影がすんだら、必ず元のASAに合わせて直しておくことを忘れないでください。

被写界深度について

ある距離の被写体にピントを合わせたとき、その前後にも十分鮮鋭に写る範囲があります。これをレンズの被写界深度といいます。被写界深度目盛❶には、距離指標㊸を中心にして両側に絞りと同じ目盛がついています。ピントを合わせた後これを見ると、使用する絞り値に囲まれた距離の範囲が被写界深度になります。

被写界深度は次のような性質をもっています。
● 絞りを小さく絞るほど深くなります。
● 近距離よりも遠距離にピントを合わせたときが深くなります。
● ピントを合わせた被写体の前よりも後方が深くなります。

遠距離にピントを合わせた場合

近距離にピントを合わせた場合

赤外補正マーク

赤外フィルムにより赤色系フィルターを用いた赤外線写真撮影の場合には、普通にピントを合わせたのち、距離指標㊸で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外補正マーク㊷(赤文字の４)の線までずらして撮影してください。

コニカオートS2のおもな性能

画面サイズ	24×36ミリ
使用フイルム	35ミリフイルム（J135）パトローネ入り
レンズ	ヘキサノン　F1.8　45ミリ　4群6枚構成
シャッター	コパルSVA自動シャッター　B・1・2・4・8・15・30・60・125・250・500倍数系列等間隔目盛　MXフルシンクロ　セルフタイマービルトイン
ファインダー	採光式ブライトフレーム　パララックスおよび画角自動修正　倍率0.65X　視野内メーター付
距離計	一眼二重像合致式連動距離計　補色鏡使用　有効基線長22.8ミリ　至近撮影距離　0.9メートル（3フィート）
露出調節	超高感度CdSメーターによる完全EE機構　メーター指針は視野内およびカメラ上部
CdSメーター	鏡胴正面上部受光窓　反射光式　受光角度　上下25°（上10°　下15°）左右 30°（各15°）電源に1.3V水銀電池使用　電源チェックボタン付

ＥＥ連動範囲	ＡＳＡ100においてＥＶ1.7（Ｆ1.8　1秒）～ＥＶ17（Ｆ16　1/500秒）ＡＳＡ125～ＡＳＡ200で1秒・ＡＳＡ250～ＡＳＡ400で1秒および1/2秒がＥＥ使用不可能となります
安全装置	ＥＥ連動範囲外の低輝度および高輝度においてはシャッターボタンが押せなくなります
ＥＥ機構の解除	マニュアル絞りによる普通撮影可能　この場合メーターは絞り目盛を示す単独メーターとして使用できます
フイルム巻上げ	トップレバーによる一操作巻上げ　セルフコッキング　二重露出防止　引出角10°　巻上角134°
フイルムカウンター	裏ぶたを開くと自動的にスタートマークに戻るオートマチックフイルムカウンター　順算式
フイルム巻戻し	巻戻しボタンを一度押してクランクで巻戻す　巻戻しボタン自動復帰式
フィルター	ねじ込み式　ねじ径55ミリ　ピッチ0.75ミリ
フード	引き出し式専用フード
大きさ重量	138ミリ(幅)×82.2ミリ(高さ)×73.5ミリ(厚さ)750グラム